

# 議会だより

 八丈町

No.203

2022.8.25 発行



News Letter From Hachijo Town Assembly

議会だよりは八丈町のホームページでもご覧いただけます

<https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/gikaidayori.html>

## 誰もがゆったり過ごせる居場所

### 地域活動支援センター よけごん



#### よけごんの開所日

◎ 月曜日（13時～17時）

◎ 水曜日と土曜日（10時～15時）

開所日には産みだての卵の販売（数量限定）もしています。

問い合わせ 電話 9 - 5452

#### CONTENTS

#### 地域社会インフラ高度化を図り、 安心安全な町づくりを目指して

2P 第二回定例会

3P 一般質問

8P 東京都町村議会議長会

議員講演会参加報告

9P 質疑より

10P 行政視察報告①

11P 行政視察報告②

12P 町民の声

八丈町の地域生活支援事業として2018年に大賀郷にある普通の民家を借りて開所した「よけごん」にお伺いしました。鶏の餌をつくる人、ソファでのんびりする人、昔の南海タイムスを集まって読んでいる人など、年齢もさまざま、障がいのあるなしにかかわらず、安心して自由にいられる居場所、それが「よけごん」です。美味しい手作りの昼食をいただきましたが、食材のカンパ大歓迎とのこと。お話を伺っていると男性がそばに来て「僕、引きこもりみたいになったんだけど、ここに来て救われました」と話してくれました。居場所があることがどんなに大事かと思えます。

（取材 山下則子）

# 第二回定例会

令和4年6月14日

## 地域社会インフラ高度化を図り、 安心安全な町づくりを目指して

令和4年6月議会定例会では、一般質問通告者（7名）が登壇。特に集中した質問の共通テーマは、人口減少・移住定住・公共交通問題などでした。

新型コロナウイルス感染症対策関連事業では、全戸水道料金（10月検針分まで）の全額支援、農協共撰箱代100%補助、観光協会・商工会の会費半額補助、漁協水代金75%補助など、八丈町独自の支援策が提案され議会在承認しました。

八丈町議会議員全員協議会では、歴史民俗資料館実施計画について、展示コンセプトと基本方針の説明が行われました。「人々の暮らしが織りなす八丈島ストーリー」と「知って」「考え」「未来につなげる」の3本柱を基本とした施設活用の姿勢が示されました。

八丈島サステナブル・アイランド事業構想（八丈町を取り巻く課題や現状から、DXを軸にした共創の取り組みを目指す将

来像を構築すること）の説明がありました。補助事業として確定した場合は、今年9月の補正予算で報告される予定です。

八丈町議会では、八丈町議会情報端末機器（タブレット）導入にあたり、必要な遵守事項を定めるための使用基準の規約を決めました。八丈町議会の活動状況を広く町民に周知し、町議会に対する理解と認識を深め、町政の発展に寄与するため、八丈町議会だより発行要綱を新たに作成し、これに則り運用することを決定しました。

また、八丈町が初めて試みる町道の「チャレンジ無電柱化支援事業」の推進計画案を構築中であるとの説明がありました。八丈島のインフラ高度化を図る要となる八丈島初！都道の無電柱化事業を皮切に、八丈島の防災と景観美に寄与する支援事業として、安心安全な町づくりを目指した新たなビジョンが次々と展開されることに、今後も期待しています。（宮崎陽子）

### 主な議決事項

#### 6月定例会

令和4年6月14日

- ◎ 専決処分事項の報告及び承認について（令和3年度八丈町一般会計補正予算）  
ほか専決処分3件
- ◎ 令和3年度八丈町一般会計繰越明許費繰越額の報告について
- ◎ 令和3年度八丈町一般会計事故繰越し繰越額の報告について
- ◎ 令和3年度八丈町水道事業会計継続費繰越計算書の報告について
- ◎ 八丈町職員懲戒審査委員会補充員の選任の同意について
- ◎ 令和4年度八丈町一般会計補正予算  
ほか補正予算1件
- ◎ 八丈町議会議員及び八丈町長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例 ほか条例1件

- ◎ 中道伊郷名線道路改良工事（坂下工区）請負契約 ほか契約1件
- ◎ 町道の路線の廃止及び認定について
- ◎ 損害賠償の額の決定について  
ほか損害賠償の額の決定1件
- ◎ 議員の派遣承認について（南大東村訪問）

### 主な会議事項

#### 議会運営委員会

令和4年6月7日

- ◎ 令和4年度第二回八丈町議会定例会について

#### 全員協議会

令和4年6月14日

- ◎ 歴史民俗資料館実施計画について
- ◎ 八丈島サステナブル・アイランド事業構想について
- ◎ 八丈町無電柱化推進計画について
- ◎ 八丈町議会情報端末機器使用基準、八丈町議会だより発行要綱、八丈町議会議員研修視察要綱について

# 一般質問

6月14日  
質問者7人

6月定例会では7名の議員が町政全般へ16項目にわたる一般質問を行いました。掲載した原稿は、質問議員が作成しています。なお、紙面の都合上、質問内容、回答ともに要約したものとなっております。中には表現が固くなる場合があります。ご了承ください。  
質問の録画映像はインターネットでご覧いただけます。  
<https://www.town.hachijo.tokyo.jp/kakuka/gikai/movie.html>



氏名	質問項目
宮崎陽子	1. 子供たちにフォーカスした町づくりから地域活性化に繋がる新たな政策について 2. 八丈町から発信する移住情報交換の場としてのオンラインサロン構築について 3. 自治体費用負担ゼロで取り組む空き家所有者に対する支援体制について 4. 「人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という意味があるDXの八丈町導入について
浅沼隆章	1. 公共交通を含めた移動サービスの課題解決に向けた具体的な対策
山本忠志	1. 持続可能な八丈町介護保険事業を目指して 2. 男性用トイレにもサンタリーボックスを
金川孝幸	1. 人口減少対策への取組について 2. 遊漁船の安全対策について 3. 職員の管外旅費について
沖山恵子	1. 土はどのように廃棄したらよいか 2. 消防団員の活動報酬アップのマイナス面はないか
岩崎由美	1. 移住定住者のモニタリングは実施しているか 2. 食とエネルギーの自給率向上を
山下則子	1. 島内でのキャッシュレス化の実現を 2. 町の交通問題解決に向けて



みやざき ようこ  
宮崎陽子議員

## 子供たちにフォーカスした町づくりから地域活性化に繋がる新たな政策について

☐ 人口が増加している自治体では「子供たちを核とした町づくり」の成功事例がある。八丈町の知見を問う。

☑ 企画財政課長 子供や子育て支援については移住定住策を考える上でも重要なことと認識している。町としてはできる限りの支援を行いたいと考えているが、全部は難しい。

## 八丈町から発信する移住情報交換の場としてのオンラインサロン構築について

☑ 町の職員が介入しなくても無料で運用が進む「Slack」で成功している自治体があるが八丈町の回答を問う。

☑ 情報交換ツールとしては有効だと聞いて

いるが、メリットデメリットを慎重に判断し検討する。

## 自治体費用負担ゼロで取り組む空き家所有者に対する支援体制について

☐ 解決の一助として、全国17の自治体が取組みを始めているプラットフォームがある。町が現在検討している支援体制と取り組みについてあわせて問う。

☐ 自治体費用負担ゼロでの取り組みがあるようだが、地方自治体が取組みに適しているかなど、慎重に判断し検討されるものと考えている。

## 「人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という意味があるDXの八丈町導入について

☐ デジタル化を成功させるためにはDXの理解が必要である。そのために、行政側の視点と住民側の視点を明確にとらえることを念頭に、新たに東京都新規事業として予算が構築された島しょ地域の第一次産業DX、離島港湾DX、それぞれ今後の八丈町DX導入に向けた知見を問う。

☐ 補正予算で審議していただく農業DXがある。今年度は試験的ではあるが、担い手育成研修センターに機器を設置。役場内で風力や温度を把握し、3年計画で遠隔により温度管理までできるようにするものである。漁業でも構想はもっている。港湾や空港については、東京都が管理者である。町では、今後でもできることから取り組んで参りたいと考えている。



あさぬま たかあき  
浅沼隆章 議員

## 公共交通を含めた移動サービスの課題解決に向けた具体的な対策

移動サービスの中でも特に観光関連の移

動手段である2次交通の問題は大変深刻で、この問題解決にあたり東京都都市整備局は令和4年3月に「東京都における地域公共交通の基本方針」を策定し区市町村による取り組みに対する支援策の拡充を図った。

☐ 地域に適した移動サービスを構築し問題を解決するため、地域の公共交通計画を策定すると思うが、どのような内容になるのか。

☐ 企業課長 地域に適した移動サービスの構築は重要であると認識しているが、今現在、町において地域の公共交通計画を策定する予定はない。二次交通については、バス事業で住民の最低限の生活路線を維持するもので、観光客や高齢者のニーズのすべてを賄うことは難しい。

☐ 2次交通の問題は観光地としては見過ごすことのできない問題であると認識しており、この問題解決のため、八丈町は繁忙期に限り日曜日の循環バスを運行し、また港や空港の発着時刻に合わせた、1時間2回以上の運行を検討することができないのか。

☐ 本年4月にダイヤの見直しを行い、港については、定期路線バスの神湊行きが船の発着時間に合わせ3便、底土バス停に運行している。また、循環路線については、飛行機の発着時間帯に利用可能な便は計10便運行している。繁忙期に、港、空港への1時間に2回以上の運行については、増便となるため、現在の運輸系の体制では難しい。

☐ デジタル活用協議会でバスなどの利用調査が行われると聞いているが、八丈町は積極的に参加して福祉と観光を両立できるような、新たな移動サービスの仕組みづくりにチャレンジするべきでは。

☐ 企画財政課長 八丈町は東京都からデジタル活用協議会の事務局としての立場で依頼を受けているため、協議会に積極的に参加することはできない。デジタル活用協議会とは、行政主体ではなく、民間主体で地域の声を形にしたデジタル技術の活用に取り組んでいく団体。



やまもと ただし  
山本忠志 議員

## 持続可能な八丈町介護保険事業を 目指して

現在実施されている八丈町の介護保険事業が「保険あって介護なし」とならないよう願って、以下質問する。

問 第8期における介護保険の利用状況について①介護認定者数と認定率の状況は②居宅、地域密着型、施設サービス、それぞれの介護サービス費の給付状況は③特別養護老人ホームの増床計画や改修計画は。

答 福祉健康課長 令和2年度末現在の状況を回答する①介護認定者数は565名、認定率は19.5%で都とほぼ同率である②居宅サービスは3億5889万円、地域密着型は8013万円、施設サービスは3億9385万円。八丈町では、国や都と比べてショートステイと施設サービスの利用率が高くなっている③人口減少中であり、認定者数も横ばいなので特養の増床計画は考えにくいですが、現在の100床は確保し、施設老朽化にともなう改修計画を検討していると聞いている。また介護人材の育成と処遇改善に取り組む。

問 介護保険料基準月額スタート時の2倍になり、今後の事業継続を危惧している。同事業をサステナブルなものにし、携わる人的リソースを安定的に確保するための同事業特別会計の基金活用について、町の所見を伺う。

答 国は、介護保険料の上昇を抑制するために介護給付費準備基金を設立しており、その結果、八丈町の基準月額は、全国平均6014円に対し5931円に抑えられている。この基金は用途を限定されており、人材確保や育成には活用できない。

## 男性用トイレにもサニタリーボックスを

問 最近、がんを治療しながら社会復帰することは当たり前の時代になり、男性の場合、「前立腺がん」や「膀胱がん」の治療

後、尿漏れパッドなどを使用する機会が増え、外出先での使用済みパッドの処理に関する悩みの相談が届いている。せめて八丈町庁舎を手始めに、男性用トイレにサニタリーボックスの設置を検討していただけないか。

答 建設課長 6月9日に、庁舎内男子トイレ9カ所にサニタリーボックスを設置した。今月中には底土海浜公園のトイレにも設置する。これらの利用状況を調査してデータとして残す。



かながわ たかゆき  
金川孝幸 議員

## 人口減少対策への取り組みについて

移住定住だけでなく住民が島から離れない策の強化が必要と考える。

問 二次交通や移動販売、買い物代行サービスに取り組む考えはないか。

答 企画財政課長 二次交通についてはデジタル活用協議会などで分析調査を行い、来年度以降の実施を目指す。買い物については民間によるデリバリーや代行の導入支援を今年度中に行い、検証する。

問 羽田からのアクセスの良さを活かし企業誘致を強化する考えはないか。

答 個人の受け入れに力を入れており企業の誘致は考えてない。住居や保育園、小中学校の受け入れ容量もあり難しい。

問 空家調査を行ったがどのように活かすのか。

答 242棟の空家を確認し、利用可能は60棟、修繕すれば利用できる物は57棟、大規模修繕が必要な物が125棟ある。今後所有者の意向調査を進める。

## 遊漁船の安全対策について

問 知床半島の観光船の事故で地域の気象や状況に合わせた運行基準の制定を求められ

ているが町の対応は。

☞ 産業観光課長 遊漁船は遊覧船とは目的や種別が違い都の管轄になるが、漁協を通して事業者に安全確認と安全管理の意識付けを行った。

## 職員の管外旅費について

町の職員は公務の際に、決められた行程で上京、または帰島しなければ、片道もしくは往復の航空運賃は支給されない。有能な職員の確保や働きやすい職場にするために見直すことはできないか。

☞ 島外出身職員数の推移は。

☞ 総務課課長補佐 平成30年から45名、47名、53名、52名、45名と推移している。5年間の平均割合は37%となる。

☞ 職員から旅費について不満はないか。

☞ 不満の声はない。

☞ 行程から離れ支給されなかった件数と割合は。

☞ 平成31年は103件、その後はコロナの影響で件数は減ったが14%前後の職員は支給を受けてない。

☞ 旅費の運用マニュアルが制定されているが、顧問弁護士のチェックは受けているのか。

☞ 国や都の例を参考に、課長連絡会や職員の意見を聞いて作成したので、外部のチェックは受けていない。旅費支給の基本はあくまでも実費弁償である点を踏まえ、疑念を生じることのないよう運用しており、民間と同様とはいかない。



おきやま けいこ  
沖山 恵子 議員

## 土はどのように廃棄したらよいか

全国的に土はごみではないといわれる。しかし、使い終わった土が処分に困る廃棄物であるのも事実だ。住宅に住む人から転

勤時に、プランターの土の捨て方を相談されたとき、良い答えが出せなかった。良い作物を作るためには土を消毒したり、休ませたり、新しく交換する必要がある。安易に畑に捨ててよいと言えなかった。他人の土地に捨てると不法投棄になるので、その人は燃えるゴミに出した。八丈町の推奨する方法を具体的に教えてほしい。

☞ 土の捨て方についてうかがう。

☞ 住民課長 土は自然物でゴミではないので、廃棄物にあたらぬ。購入した場所や土地所有者に相談したり、便利屋さんなどに依頼するというのが町の案内だ。土をゴミとして出す行為はルール違反になる。

☞ 町で集めて最終処分場や中之郷の処分場の覆土に使えないか。

☞ トラック単位で無料の土を使っており、土の均一性などの問題から個人からの受け入れは難しい。

☞ ゴミとしてではなく住民サービスとして回収が考えられないか。

☞ 産業観光課長 住民サービスとして対応することではないと思う。

## 消防団員の活動報酬アップのマイナス面はないか

消防委員として消防団活動の推進や待遇改善に努めてきた。令和4年4月から、消防団の出動手当てが増額し、実費弁償から報酬に変わった。待遇が良くなり喜んでいたら、「手取りが減った」「公務員の団員が活動しにくくなった」との声を聴いた。

☞ 手取りが減ったという事例や公務員は副業に当たるといふ事実があるのか。

☞ 消防長 年報酬5万円と災害出動報酬8千円、その他の出動4千円までは非課税で、活動時間により金額が変わるが、以前より低くなることはない。公務員の消防団活動は、地方公務員法で公の活動と認められており、副業ではない。所属長の許可があれば、就業中の活動も地方公務員法で職務が免除される。

☞ そのことを広く周知して欲しい。

☞ 今後広く周知する。



いわさき ゆみ  
岩崎由美議員

## 移住定住者のモニタリングは実施しているか

問 町は人口減少問題を最重要課題に掲げている。令和4年5月1日の人口は7086人。Iターン、Uターンの概数は。

答 企画財政課長 あくまでも推計で、令和元年から令和3年のIターンは96人、87人、73人でUターンは50人、69人、75人だった。

問 空き家調査の状況は。

答 所有者の意向調査をした上で不動産業者の協力を得て、移住者用の住宅として活用できるようにしたい。

問 不動産事業者との連携が課題では。

答 業者とはまだ話をしていないが、アイデアは温めている。

## 食とエネルギーの自給率向上を

日本の食糧自給率は40%以下。エネルギーも高騰。大災害があれば、島外からの食糧の供給がストップする可能性もある。

問 島内の食糧生産量を上げることが必要だが、町の考えは。

答 産業観光課長 農業DXの加速化、ロボット、AI、IoTなどの活用を掲げている。

問 観葉植物ではなく食糧産品については。

答 生産品目の推奨はできる可能性はあるが、特定品目の指定は難しい。

問 地熱発電開発の進捗状況、地域貢献の方針は。

答 企画財政課長 噴気試験後、設備設計、建設工事、試運転を経て本格稼働する予定。地域貢献策については、ふるさと優待を実施していたが、現在は行っていない。商工会からは以前に意見書が出された。

問 町、オリックス、外部の有識者の連携が必要なのではないか。

答 まず地熱発電所ができることが重要。有識者の声には耳を傾けていきたい。

問 棒受け漁が危機的状況と聞いているが把

握しているか。主力であるキンメダイについても漁獲量が減少する可能性がある。漁業を守るための取り組みは。

答 産業観光課長 漁獲高が減少している原因はさまざまだが、気候変動などについては個々の自治体で対策が立てられるものではない。燃料高騰などもあり漁業操業が厳しい状況。東京都と協力して漁業者支援を行っていく。キンメダイについてはTAC（漁獲可能量制度）による漁獲量の制限が見込まれる。東京都の海を東京都の漁業者が使えるよう都と要望していきたい。



やました のりこ  
山下則子議員

## 島内でのキャッシュレス化の実現を

問 令和元年第二回定例会での一般質問において、島内でのキャッシュレス化の導入について伺ったところ「導入の計画はないが検討していく」との回答があり、次年度にはキャッシュレス決済について銀行と話し合いを始めたとのことだった。現在の進捗状況を伺う。また、町立八丈病院でのキャッシュレス導入についても教えてほしい。

答 総務課長 八丈病院を含め市内でのキャッシュレス導入については、調査研究の段階。決済手段や会計処理上の課題などがあるが、住民の方の利便性を考慮し引き続き検討していく。そのため開始時期は決まっていない。

## 町の交通問題解決に向けて

問 民間のタクシー会社に1台あった福祉タクシーがなくなった。3月の定例会で質問し、町は民間のタクシー会社に導入されるまで、とりあえず社協に運行をお願いしていますとのことだった。社協は自宅から病院との間の移送サービスであり、タクシー業者の福祉タクシーとは意味合いが異なる

と思う。民間のタクシー会社に福祉タクシーがあれば、観光目的で来島した車椅子の方も利用可能な、便利な乗り物といえると思うが、町の考えを伺う。また、民間のタクシー会社が福祉タクシーを導入できない理由を町はどのように考えるか。

☒ 福祉健康課長 関係機関と協議を重ねているが、現在は有効な打開策がない状況。しかし、車いすを利用している方にとっては限られた移動しかできない状況のため、

座位が保てる方であれば、身内・知人の協力やタクシーで車椅子をたたんだ移動をお願いしている。保てない方は、一時的措置として社協また町で対応している。タクシー業者さんの問題については、採算のことや後継者不足があると聞いている。今後については、デジタル活用協議会の利用ニーズの調査結果を注視したい。あわせて町の事業と福祉タクシーを組み合わせる事業ができないかを考えたい。

## 東京都町村議会議長会議員講演会参加報告

令和4年5月11日(水) 14:45~16:45  
アジュール竹芝 14階「天平」

### 「議会の新しい展望—コロナ禍を契機にして」

講師 中央学院大学 社会システム研究所教授 福嶋浩彦氏

参加議員 宮崎陽子・浅沼隆章・山下則子・山本忠志・沖山恵子・菊池良・小川一・山下巧  
岩崎由美・金川孝幸・廣江才・奥山幸子

「地方議会とは、スポーツに例えて言うならばサッカーなどの団体競技に例えられるが、現状はゴルフのような個人競技になっている」…。冒頭からこんな話で始まった。限られた予算を活かすためには、議員それぞれが住民から受けた要望を議員間で徹底的に議論した上で行政と協議すべき。しかし現状はバラバラに住民の要望を行政に伝えているため、議会が本来の機能を果たしているとは言えないという意味だ。なるほど！と思わず膝を打つ。議会基本条例や新たな地方議会の在り方などについて、かつて首長だった経験を踏まえた講演は、今後の八丈町議会を考える上で大変勉強になる内容だった。

「人口減少とはいえ地域同士の人の奪い合いに未来はない。大切なのは今住んでいる人を幸せにすること」、「地方自治とは住民ひとりひとりの思いから出発する。地方は国の下請けになってはならない」、「意見を言いたい人がいつでも言えるように」など、ひとつひ

とつの言葉の奥深さが身にしみた。

次期改選から八丈町議会の議員定数は14人から12人になる。「しくみを小さくして質を高めることを実践していかなければならない」というお話もあった。多様性を大切にしながら自治体が自立の精神を持ち、その地域にしかない魅力を生み出すために最大限の力を発揮する議会にならなくてはならない。

(岩崎由美)



# 質疑より

## ◎ 広報の死亡欄について



**浅沼 憲春 副議長** 以前も要望したが、広報の死亡欄の掲載について、その後いかがか。希望者だけを掲載というのは。実施している自治体もある。

**企画財政課長** 広報は行政の情報をお知らせするというのを大原則にしている。個人の情報を載せるというのは難しい。

**町長** 希望者だけとなると、掲載されなかった方については結局「知らなかった」ということになってしまう。

## ◎ フジージャ球根の配布について

**浅沼 憲春 副議長** 配布した球根が個人の家で咲いていないという話を聞く。中には球根を島外に送っているという話があるが、その対策は。

**産業観光課長** 花を咲かせるのは難しいと聞いている。作付けの時期などは、坂上地域では花いっぱい運動として、地区で作業していただくなどいろいろな方策を提案していければと思う。

## ◎ 海の家が開設されない理由は

**浅沼 憲春 副議長** 今年も海の家が開設されない理由は。

**産業観光課長** 観光協会からは、今年度はコロナ対策などを行っての海の家への開設は困難との連絡を受けた。事業者が場所を利用する場合には個別に対応している。

## ◎ 給食費は補助は

**山本 忠志 議員** 食材が値上がりしていて学校給食の方は補助しなくていいのか。

**教育課長** 学校給食費について、保護者の負担はここ数年据え置いている。足りない部分は町で補填している。

## ◎ 職員の働く環境の改善を

**岩崎 由美 議員** この春、職員が自死した。また定年前の退職者が増えている。役場は職員が夢を持っていきいきと働けるような場所で

あってほしい。今回のことも踏まえて、町長から何かコメントがあったら伺いたい。このようなことは二度と起きてほしくない。

**町長** 働く環境が大事だと思っている。特に、職員の負担が大きくならないよう欠員が出ないことが大切だが、募集してもなかなか応募がない。デジタル化になっても、やはり仕事の幅が出てくる。職員の不満のない環境を作りたいというのが自分の思いであり、できるだけ採用者を増やしていきたい。

## ◎ タブレットについて

**山下 則子 議員** 議会のデジタル化に向けて町が導入するタブレットの金額と内容は。

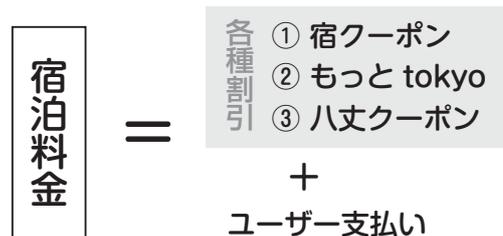
**企画財政課長** タブレット単価は約15万円で、周辺機器を含めて20万6千円に。全部で38台購入する予定である。

## ◎ 旅行クーポンの有効活用を

**浅沼 隆章 議員** 観光誘致のための八丈島の独自クーポンや都民割、しまぼなど、集客に効果がみられている。今後の予定、運用事業者は。また繁忙期以外、集客に効果的な時期に使えるなど、関係者と話しているか。

**産業観光課長** 独自クーポンについて、7月以降に関しては楽天、ANA、じゃらん、JTBの4事業者からご提案をいただいている。アンケートなどをとり、開始の時期について観光協会、宿泊部会と相談している。各社準備が整う時期が違うので、そこは情勢を見極めながら行っていきたい。旅行者が利用できるクーポンは3つまでという制限がある。GOTOトラベルがどのような形で再開されるのかという情報にも留意しながら、観光協会と話をすすめている。

クーポン併用の組み合わせイメージ



(一度の旅で利用できるクーポンは3つまで)

# 行政視察レポート ①

日時 令和4年7月4日(月)～6日(水)

参加議員 宮崎陽子・山下則子・沖山恵子・小川一・廣江才・浅沼憲春

視察地 株式会社モビリティワークス（東京都町田市鶴川団地）

目的 グリンスローモビリティの導入と実情について

(株)モビリティワークスの西利也代表取締役にお話を伺った。鶴川団地は3000戸以上ある、いわゆる昭和のマンモス団地。高齢化のため団地内にある商店街までの移動の問題があり、行政・企業・地域が一体となり、社会福祉法人が運営を担って移動支援を行っている。会員は年会費500円の利用料のみ。燃料の電気代はUR<sup>\*</sup>と商店街が持ち、その他は協賛金・助成金でま



写真撮影時はマスクを外しています



かなっている。

モビリティワークスは、車輛運行システムの提供や車輛整備・事業コーディネートをする会社。試乗や運転もしたが、遊園地の乗り物のようなワクワク感を覚えた。しかし、風雨の強い八丈では、側面・後面のビニールのような幌を下ろす作業が加わり、実用性には疑問が残る。観光客には喜ばれると思う。（山下則子）

<sup>\*</sup> URとは団地などを運営する独立行政法人

視察地 栃木県さくら市

目的 議会運営と行政のデジタル化

通常の議会での利用からコロナや災害時の利用について

昨年度は、八丈町議会「初」となりましたオンライン行政視察を行いました。今年度は、直接現地での視察が決定したので「行政のデジタル化」についてご報告させていただきます。

令和元年9月から議員と執行部職員において、タブレット端末とクラウドを用いた文書共有システムを導入した栃木県さくら市議会を視察。年間約160万円分の紙資料のペーパーレス化や情報共有のスピード化、議会運営の効率化などを図ることが目的とされています。データはすべて暗号化され、セキュリティ対策により、外部への情報流出などの誤送信の心配はありません。議会の質の向上のためにもデジタル化が必須の時代となったことを改めて学びました。今

後、さらに議会力のアップが問われます。

（宮崎陽子）



写真撮影時はマスクを外しています

## 行政視察レポート ②

日時 令和4年7月6日(水)～8日(金)

参加議員 浅沼隆章・山本忠志・山下巧・金川孝幸・奥山幸子

視察地 西多摩衛生組合環境センター（羽村・福生・青梅・瑞穂）

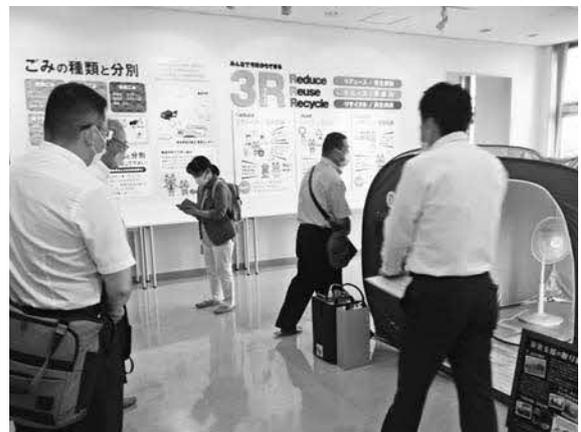
目的 時代にあった焼却施設のあり方・  
循環型社会構築のための取り組みについて

同施設は3市1町（青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）約27万人の人口から出たごみを収集し、全連続燃焼式で処理しています。八丈町とは規模が異なりますが、施設の延命化など、新クリーンセンターにも応用できるものもあると考えます。

余熱利用により同施設の使用電気量の約6割を賄い、場外浴場施設に対して熱供給を実施。焼却残さの再資源化を行い焼却灰でエコセメントを製造。金属類はリサイクルセンターで再資源化し、環境負荷を低減。分別・収集区分を17に分別し、住民の意識改革を行いながらごみの減量化にも取り組む事業など、多くの学びがありました。

また、八丈島で開発された移動式蓄電池エネアイループの活用事例なども視察しました。

地域と協働する清掃工場の実現のため、予算をかけずにさまざまな事例の可視化、環境学習授業受け入れを行うなど、関係者の努力に大変感銘を受けました。（浅沼隆章）



視察地 群馬県富岡市

目的 富岡製糸場の維持管理・観光施策等富岡市の取り組みについて

明治政府は、日本の近代化への礎として富岡製糸場を工場化し、その技術は全国から集まった女工たちの手で各地へ伝播され、世界一の水準になりました。この事業は、国や民族を超えて共有すべき「顕著で普遍的な価値」をもつ人類共

通の財産として、2014年に世界遺産として登録されました。

現在、同市では「世界遺産のある町から世界遺産に相応しい町へ」とのコンセプトのもと、来街者の増加を目指しており、開発型の区画整理から地域資源を活かした町づくりへと大転換を進めているとのこと。八丈町の観光振興にもそのまま当てはまりそうなフレーズに共感。今年度の見学者の目標は40万人、と意気軒高な市職員の姿から、パワーをいただく視察となりました。

（山本忠志）



写真撮影時はマスクを外しています

## 地域おこし協力隊

新井 誠人さん(31歳)

海のない地域で育ち、いつか島の暮らしを体験してみたいと考えていたところ、地域おこし協力隊として八丈島に赴任する機会をいただきました。大学時代、八丈島出身の同級生がいたこともあって、なんとなくなじみある場所だったこともひとつの理由です。



現在は末吉地域に暮らしながら、旧末吉小学校の活用を担当しさまざまな企画をしています。例えば、音楽室を改装し音楽活動の練習やレコーディングができるようにしました。老人会の皆さんが身体を動かしたり、地域の方が交流できるようなサロンの活動の開催も目指しています。先日は島内で食や体験活動に関わっている皆さんのイベントの場として活用されました。

141年間、地域の方に愛され大切にされていた旧末吉小学校。そんな皆さんの思いを胸に、「こんなことをやりたい!」を一緒に形にしていきたいです。島の方はもちろん、観光客など多様な方々に利用していただける施設になったらいいなあ、と考えています。まだお会いできていない方が多いですが、ぜひこの取り組みに興味を持っていただけたら嬉しいです。

プライベートでも島の文化や暮らし、ゲートボールなどを教えていただきながら、日々楽しく充実した生活をしています。任期が終了しても島に残りたいと考えていますが、たとえ島を離れるようなことになっても、八丈島にはずっとずっと関わり続けたいと思っています。

(聞き手 岩崎由美)



末吉老人クラブの皆さんと

## 地域おこし協力隊

鈴木 綾さん(年齢ひみつ・大賀郷)

今、世界中でエネルギー問題がクローズアップされています。水が豊富な八丈は過去に水力発電を行っていましたが、今は化石燃料による火力発電が中心です。綾さんは、再生可能エネルギーによる発電事業および再生可能エネルギーの活用について考えるのが仕事だそうです。

Q なぜ島に来たの。

A 以前より関心のあったことを学ぶため、社会人学生として、大学院で島嶼地域における持続可能な社会に向けた取り組みについて学んできました。海のない埼玉県出身で、海に憧れがあります。過去にダイビングで八丈島に来たこともあり、今回の募集内容に興味を持ち応募しました。

Q 今やっていることは。

A 4月に来たばかりで、地熱発電の説明会に参加したり、島の状況を調査している最中です。

Q 八丈はどうですか。

A 生活は島に来る前に抱いていた不安もほぼ解消され普通にできています。また、島の人のはつながりが深く、温かくアットホームです。知りたいことがあると、自分であれこれ調べなくても詳しい人を紹介してくださったり、メリット・デメリット含め詳しく教えてください。

Q 今後の活動は。

A 「クリーンアイランドを目指す町」として、風力・太陽光を含め、島に合った発電方法を模索していきたいです。島の人の方が島のことを理解しているので、さまざまなアイデアを聞かせてほしいです。多くの人に興味を持っていただき、一緒に新しい形を作っていきたいです。

(聞き手 沖山恵子)



## 【あしがき】

女性4人が編集委員になり、かしましく会議をしながら議会だよりを作り4年が経ちました。研修でつくり方を学び、読みやすく興味を持つ内容にしようとするさまざまな改革を行ってきました。町民の町に対する要望を議会に生かせればと「町民の声」の欄を設けたり、町が補助金を出している団体を表紙で紹介し

たりと、以前とだいぶ変わりましたがいかがでしたでしょうか(今回が現メンバーで発行する最後となります)。

ご協力いただいた皆様(表紙15団体・町民の声30名の方々)、本当にありがとうございます。10月16日は町議会選挙です。あばよーい!! またよー!!

(沖山恵子)

発行人 八丈町議会議長 奥山幸子

編集 議会だより編集委員会 委員長 岩崎由美 委員 宮崎陽子 山下則子 沖山恵子

〒100-1498 東京都八丈島八丈町大賀郷 2551-2

tel 04996-2-2788 fax 04996-2-4437 メール gikai@town.hachijo.tokyo.jp

